

北海道情報大学学内報



●目次●

新春を迎えて 学長 久野 光朗 …………… 2	南京大学 閔鉄軍副学長一行 来学 …………… 5
北海道情報大学学生表彰受賞 檜 なぎささん …… 3	国際交流委員会だより …………… 6～7
瀋陽師範大学と国際交流協定締結！ …………… 4	主要行事・編集後記 …………… 8

発行・北海道情報大学
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



新春を迎えて

学 長 久 野 光 朗

みなさん、明けましておめでとうございます。新春を迎え、みなさんとともに、まず世界平和の到来、ついで日本経済の活力の回復、さらに本学の維持・発展を祈りたいと考えます。

教育界、なかんずく21世紀初頭の10年間における大学にあっては、マクロ的な問題として ① 2004年問題、② 2006年問題、③ 2009年問題の3つをとりあげることができます。

2004年問題は、国立大学の法人化およびロースクール開設問題とともに、一連の『大学設置基準』の改正により、第三者評価の実施が今後7年間に1度の割合で義務化されるようになったということです。

1991年以來の自己点検・評価の努力義務が1999年以降は強化され、さらにそれが強化されるにいたったわけです。かつては「象牙の塔」と称され、えてして社会から閉ざされがちであった大学が、社会に対する説明責任の履行の一環として研究・教育・社会貢献という3大職責の公開を図ることになったわけです。かかる社会的要請に応じるため、今後われわれは大学の質的充実に真剣な努力を払わなければなりません。

第二の2006年問題ですが、昨年から高校で『新学習指導要領』が実施され、俗に「ゆとり教育」といわれる学習内容30%削減の卒業生たちが大学へ進学してくることになります。

従来から大学への入学者の基礎学力低下が問題になっているだけに、これは大変なことになると思われます。専門教育もさることながら、基礎教育を担当する教員たちの悩みは倍加されることになります。われわれは、いまからこの対応策を具体的に考えておかなければならないでしょう。

第三の2009年問題とは、18歳人口が1992年の205万人から、少子化がすすむ2009年には120万人となり、数のうえでは「大学全入時代」が到来するということです。アメリカの教育学者M.トロウは、すでに1970年代、大学への進学率上昇にともなう歴史的な分析による3つの類型化を試みています。すなわち、同年代の進学者が15%以内であればエリート大学、15%~50%以内であればマスプロ大学、50%以上に達すればユニバーサル(大衆化)大学だという類型化です。

かかるユニバーサル大学になった場合、その教育は

いかにあるべきでしょうか。とくに私立大学にとっては、定員割れという経営上の問題とともに、その存立にあたって死活上の大問題になることは必定です。

ついで、ミクロ的な問題として、本学独自の当面の課題について整理してみましょう。2002年から2003年にいたる諸事項に関しては、すでに『ななかまど』(第25号)の拙稿「新春を迎えて」で説明しておきました。そこで、2003年から2004年にかけての注目すべき課題を4つにしぼって簡潔に述べることにします。

まず大学院の改革に関連して、① 2005年3月の情報メディア学部第1回卒業生をも対象として、既存の経営情報学研究所の改組・改善、② 博士課程の新設、および③ 通信教育部での修士課程新設 という課題です。すでに小生の諮問に対する答申を得て、その具体的展開方法の検討に入っています。

第二に、情報メディア学部の完成年度を前提にした同学部のカリキュラム改善という課題です。これについても、2月末までに改革原案が提示されることになっており、それに基づいて具体的検討をすすめる予定になっています。

第三に、通信教育部の改革ですが、同部が創設以来すでに10年を経過しているため種々の制度疲労をきたしていることにかんがみ、とくに科目履修生の増加に関連して、その単位修得の認定方法をもふくめて、カリキュラムの見直しを考えています。この件に関しては、すでに既設の通信教育委員会が改革案の作成に向けて自主的に行動を開始しています。

最後に、本学の学生教育にコンピュータやネットワークを活用した情報システムを構築するという課題です。たとえば、学生諸君の出欠・成績・単位取得などの情報管理や教科内容の公開に関する電子媒体を通じての情報提供を図るものです。この件に関しても、すでに検討委員会の設置を決定しましたので、早急に調査・検討をかさね、出来ることから順次実施していく予定です。

以上、本学が当面する諸問題をマクロ・ミクロの両観点から解説してみました。みなさんの御理解を得て積極的に実現を図っていきたくて考えています。御協力のほどをお願いいたします。



北海道情報大学学生表彰受賞 檜なぎささん国体出場果たし受賞第1号の栄に輝く

檜さん、まずは国体出場おめでとうございます。本学の学生が国体に出場したのは開学以来のことで、大変素晴らしいことです。また、ご本人にとっても記念すべきこととして深く思い出に残ることでしょう。

本学ではこれまで学内表彰に値する事例がなかったためか、学則第58条に表彰に関する条文があるにも関わらず具体的な表彰規程が定められておりませんでした。昨年の6月頃に表彰規程を定めようとする機運が高まり、他大学の表彰規程を参考にしながら学生委員会、教務委員会等で原案の審議を行い、10月に制定の運びとなりました。

丁度このような時期に、檜さんは9月に開催されたフェンシング全道フルレ選手権大会で優勝し、さらに10月の第58回国民体育大会秋期大会（わかふじ国体、静岡県）に出場するなど、大いに北海道の

代表選手として活躍されました。本学からは応援に行くことはできませんでしたが、本学園の東京事務所から2名の方が現地へ応援にかけつけてくれました。現地の写真はその方々が撮影してくれたものです。残念ながら北海道は予選で敗退しましたが、檜さんのこれまでの活躍は大いに称賛されるべきものです。

本学の学生が全道大会で優勝し、かつ国体に出場したことは開学以来初めてのことで、本学にとっても大変喜ばしく、かつ名誉なことです。また、学生にとっても檜さんの活躍は勇気と自信を与えてくれるものであると思います。

このように檜さんの本学に対する貢献が非常に大きいことから、檜さんを第1号の北海道情報大学学生表彰者として表彰する運びとなり、12月22日に学長より表彰状と記念品が贈呈されました。



(中央が檜さん)



(試合風景)

北海道情報大学と瀋陽師範大学との 国際交流協定締結！

—瀋陽師範大学・趙大宇学長一行 来学・調印式が行われる—

平成15年12月4日(木)、中国瀋陽師範大学・趙大宇学長を団長とする代表団が来学されました。趙大宇学長からの姉妹大学・国際交流申し入れに応じて、昨年6月に、本学国際交流委員長の前田隆先生等が瀋陽師範大学を訪問したのを機に国際交流協定締結について話し合いが進み、今回調印の運びとなったものです。本学として、国際交流協定を締結した大学は、平成11年5月の南京大学をはじめとして、平成15年7月のカリフォルニア大学サンタクルーズ校に続いて、3大学になります。

今回、調印のために来学された方々は、瀋陽師範大学・趙大宇学長、張乃翼招長主任、趙慧平文学部部長、趙為校長副主任の4名からなっています。本

学からは久野光朗学長等が出席し、「教育研究の交流に関する協定書」に調印しました。調印式を終えてから、本学の教育研究施設等を見学した後、午後には国際交流委員会のメンバーと学術交流懇談会を



沈陽師範大学

建设国内知名的省属一流师范大学



中国瀋陽師範大学全景

行い、本学の紹介ビデオや瀋陽師範大学の紹介CDを見るなどしてから、今後の交流内容等について意見交換を行いました。今後具体的な交流の実施が望まれます。

中国瀋陽師範大学は、中国東北部の最大都市である遼寧省省都・瀋陽市にあります。昨年春、街の中心部から郊外に広く美しい新キャンパスを建設・移設して新たな意気込みで発展しつつある大学です。日本でいえば教育系大学に対応しますが、1951年創立で、現在14学部（外国語・中国文学・政治経済・

法律・社会・教育・音楽・美術・幼児初等教育・数学・物理・化学生物学・情報技術・旅行学部）と修士課程7専攻（哲学・教育学・管理学・工学など）に、約16,000名の学部学生と約500名の大学院生（修士課程）、約170名の留学生を有する総合大学です。

瀋陽市は新千歳からの直行便を利用すれば、3時間弱で行き来できる至近距離にあり、気候風土的にも比較的似ているなど、より親近感をもって友好協力関係を築いていくことが期待されます。

南京大学 閔鉄軍副学長一行 来学

平成15年11月1日（土）中国南京大学 閔鉄軍副学長一行が来学されました。今回の来学は、本学と南京大学が1997年に締結している国際交流協定を更新するための打ち合わせと、今後一層の交流強化を目的として本学を視察に訪れたものです。

南京大学は中国でもっとも歴史のある大学のひとつで、現在、中国でもトップクラスの総合大学です。大学の規模は36学部69学科、大学院は修士課程103専攻、博士課程53専攻を誇り、学生数は17,000人を越えます。歴代の学長には中国近代史を飾るそうそうたる顔ぶれがならび、「大地」で有名なパール・バックも教鞭をとったことがあります。本年度はSARSのため中止しましたが、1999年から毎年、本学からの短期留学生を受け入れてくださり、交流を続けてきました（長期にも数名）。この短期留学は「海外事情（中国編）」として単位を修得することの

できる科目にもなっています。

今回来学されたのは、閔鉄軍副学長、任利剣主任、彭曦副教授の3名。歓迎式典の後、学内見学や大学紹介ビデオを見たりするなどして、学生交流に関する打ち合わせを行いました。今後、学生交流を一層盛んに行い、さらに、学生のみならず教職員の交換交流の実施も検討したいとのことでした。



国際交流委員会だより

本学から学生交換協定による初の長期留学生として、カリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)で学生生活を送っている阿部美由紀さん(経営学科3年)、用名真弓さん(情報メディア学科3年)から便りが届いた。今回は、彼らからの「サンタクルーズ便り」をお届けしよう。読者の学生諸君には、彼らの後に続く意欲的な者が次々と出てくれることを期待したい。

アメリカ留学 In Santa Cruz.

経営学科 0111001 阿部 美由紀

私たちは今、交換留学生としてUCSCのエクステンションで毎日英語の勉強をしています。先生はもちろんアメリカ人なので最初の1ヶ月間は授業で話していることもほとんど理解できませんでした。また宿題や課題が毎回出され、毎日がいっぱいいっぱいの生活をおくっていました。でも、こちらの授業はとてもユニークで楽しいです。Speakingの授業ではダウンタウンを歩き道行く人にインタビューをしたり、店員さんに話しかける練習をしました。World Issuesの授業では、新聞を読んで討論をしたり、サンタクルーズについて学ぶため毎回バスに乗っ

ていろいろな所に行きます。海でSea Lionの観察や、ゴミ拾いをしながら環境問題について話したりしました。

もうすぐサンタクルーズに来て2ヶ月が経とうとしています。今はだいぶこちらの生活や環境にも慣れ、ハロウィンで仮装したり、バースディパーティに参加したり、色々なイベントにも参加して充実した日々を過ごしています。

また、授業以外でも毎週火曜日の夜は、市が開いているアダルトスクールで英語の勉強をしています。そこには、ほとんどスパニッシュ系の人達が通っています。彼らはとてもフレンドリーで今ではお互いに日本語を教えたり、スパニッシュを教えてもらったりしています。水曜日の夜は、日本語を勉強しているUCSCの学生との交流会に参加し、たくさんの友達ができました。

今はいろいろな事にチャレンジしたい好奇心でいっぱいです。私はもっと英語を話せるようになって、たくさんの人と話ができるようになりたいです。だから、今は寮で生活していますが、ホームステイをしてアメリカの生活習慣も学んでみたいと思っています。

日本に帰るまでにはTOEFL550点以上を取得し、UCSCの授業単位を修得できるように、こ

れからも頑張って英語を勉強し、たくさん
のことを吸収していきたいです!!

サンタクルーズでの生活

メディア学部3年 0121105 用名真弓

本学の交換留学生としてアメリカへ来て、早くも2ヵ月が経ちました。大分生活感も出てきて、「住んでいる」という実感が湧いてきました。

私は今、UCSCのエクステンションで英語の勉強をしています。レベル分けされた少人数のクラスで授業は行われています。毎日の宿題が多く大変ですが、授業はとても楽しいです。それぞれがそれぞれの目的を持ってアメリカへ来ているので、不真面目な生徒は1人もいません。その緊張感が私にとって良い刺激となっています。寮の下がエクステンションの教室になっていて、ラウンジでは無料でコーヒーが飲めるので、毎朝授業の前にコーヒーを飲むのが私の日課となっています。来年からは語学勉強だけでなく、キャンパスでの専門科目も受講しようと考えています。

最近では、週に1回市が無料で行っている英会話スクールにも通っています。ここには日本人はほとんどいなく、メキシコやチリといったスパニッシュ系の人たちがほとんどです。英語で会話しつつも、日本語やスペイン語を教え合ったりして楽しんでいます。とても良い機会だと思っています。

私は以前にも何度かアメリカへ来たことがあ

りますが、住んでいるのと、観光で来た時とは違う多くのことを感じ、考えさせられます。アメリカと日本の学生の勉強に対する姿勢、教育スタイル、国民性、文化…多くのことが違います。

毎週水曜日にキャンパスでLanguage Tableという日本人と日本語を勉強している学生が集う集まりがあります。ほとんどの学生は日本語を1年ほどしか勉強していないのに、とても会話が上手です。しかし私は中・高の6年間英語を勉強してきたのに会話のレベルはほとんど変わりません。とても驚かされます。これを機会にこちらの学生とも友だちになることができ、時々みんなでパーティーをしたりして楽しんでいます。

これは私の生活のほんの1部分にすぎません。まだまだ楽しいことや学んだことがたくさんあります。これを読んで1人でも多くの方が海外に興味を持ち、海外事情や交換留学に参加してくれたらと思います。



サンフランシスコのユニオンスクエアにて
(左から2人目が阿部さん、4人目が用名さん)

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇事務職員人事◇

退職(1月15日付)

通信教育部事務部

吉岡 慎也

◆◆ 11月～1月主要行事 ◆◆

☆大 学☆

11月21日(金) 情報メディア学部教授会
23日(日) 推薦入学試験・特別入学試験
12月4日(木) 瀋陽師範大学との調印式
12日(金) 全学教授会、経営情報学部教授会
19日(金) 情報メディア学部教授会
20日(土) 情報メディア学部3年次編入学試験
(2次募集)
26日(金) 仕事納め
平成16年
1月5日(月) 新年交礼会
16日(金) 経営情報学部教授会
17日(土) 大学入試センター試験
18日(日) “ ”
20日(火) 「Webサイト構築」に関する特別講演会
講師：(榊野村総合研究所 情報技術本部 三井 英樹 氏)

☆ 通信教育部 ☆

<入学選考>

11月21日(金) 第2回入学者選考

12月19日(金) 第3回入学者選考

<後期地方スクーリングⅡ>

11月14日(金)～11月16日(日) 福岡

<後期地方スクーリングⅢ>

11月21日(金)～11月23日(日) 札幌、名古屋、大分

11月25日(火)～11月27日(木) 新潟

11月28日(金)～11月30日(日) 全国15か所

12月5日(金)～12月7日(日) 新潟、福岡

<後期メディア授業科目試験>

12月15日(月)～19日(金)

<後期印刷授業科目試験>

平成16年

1月9日(金)～11日(日)、1月16日(金)～18日(日)

☆大 学 院 ☆

4月7日(月) 研究科委員会

5月26日(月) 大学院入学説明会

7月31日(木) 研究科委員会

11月20日(木) 研究科委員会

12月11日(木) 研究科委員会

平成16年

1月9日(金) 平成15年度学位論文申請期限

◆◆ 広報活動 ◆◆

<北海道情報大学通信教育部独自説明会>

11月29日(土) 於;新潟

12月6日(土) 於;東京

12月13日(土) 於;大阪

12月14日(日) 於;名古屋

<進学相談会>

11月;北海道7会場(岩見沢、留萌、滝川、富良野、小樽、倶知安、伊達)

12月;北海道7会場(千歳、苫小牧、札幌、帯広、釧路、北見、旭川) 計14会場

<高校内進学ガイダンス>

11月;北海道4校(札幌拓北高校、恵庭南高校、札幌篠路高校、札幌北斗高校)

12月;北海道3校(札幌第一高校、札幌稲北高校、石狩翔陽高校) 計7校

<高校出前授業>

11月13日(木);釧路西高等学校

<高校訪問>

11月;北海道91校

12月;北海道218校 計309校

<テレビ>

11/5～11/13、12/22～1/20;UHB

12/22～1/20;TVH

12/30～1/26;HTB

<新聞>

11月29日(土);毎日新聞(私立大学連合)

12月3日(水);毎日新聞(私立大学連合)

12月17日(水);毎日新聞(私立大学連合)

12月19日(金);北海道新聞(本学独自)

12月30日(火);毎日新聞(私立大学連合)

1月1日(木);北海道新聞、朝日新聞(本学独自)

1月5日(月);北海道新聞(私立大学連合)

1月7日(水);朝日新聞、毎日新聞(私立大学連合)

<交通>

12/5～12/19;北見バス

12/10～12/19;函館市電、網走バス、十勝バス、釧路バス、あさでんバス、旭川電気軌道バス

12/20～12/26;札幌市営地下鉄

◆◆ 特記事項 ◆◆

<インターネット安全教室>

11月22日(土) 於;本学

<特記事項>

12月4日(木) 北海道情報大学と瀋陽師範大学との交流協定を締結

◆◆ 主な来学者 ◆◆

11月12日(水) 札幌白陵高等学校 生徒9名

11月21日(金) 北広島西高等学校 生徒33名、教員1名

12月4日(木) 瀋陽師範大学 学長他4名

12月17日(水) 札幌平岡高等学校 生徒21名、教員1名

編集後記

今回の「ななかまど」は1月20日が発行日となりました。ちょっと遅れ気味です。最近は、記事の掲載の依頼が多く感謝しています。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、今年もさらに応援お願い致します。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第29号

発行日 平成16年1月20日

発行 北海道情報大学

編集 学内報編集委員会